

環境研究総合推進費令和7年度事後評価個票

研究課題番号	5MF-2301
研究課題名	2050 カーボンニュートラル環境での国内地表オゾンの予測と低オゾン・脱炭素コベネフィット戦略の提示
研究実施期間	2023 年度～2024 年度
研究代表機関名	国立環境研究所
研究代表者名	永島 達也

1．評価結果

評価ランク：A

2．委員の指摘及び提言概要

気候変動の影響を考慮してオゾン濃度を予測しており、担当者らのこれまでの研究の蓄積を生かして明確な成果が得られており、当初の目的はほぼ達成している。オゾン生成の変化は、森林の二酸化炭素吸収量への影響においても重要である。脱炭素戦略と大気質改善戦略のコベネフィットについて、いくつかのシナリオで定量的に評価できた点は高く評価できる。擬似温暖化手法を用いたコベネフィット効果による将来気候シナリオを理解しやすい形で可視化した手法は、多様な活用が期待される。大気汚染低減のための対策立案に大きく貢献することが期待され、行政施策の社会への説明等にも利用可能な成果が得られている。データ同化の効果については再検討し、オゾンに関する結果の妥当性を確認してほしい。脱炭素・排出削減シナリオの1.5 目標相当を実現するためにはメタンも削減しなくてはならないので、その影響も検討していただきたい。今後、積極的に査読付き論文を公開するべきである。